

書 評

農薬用語辞典／農薬用語辞典編集委員会 [編]／(社) 日本植物防疫協会／2009 年／405 ページ／本体 5000 円＋税)

農薬開発の発展と国際化を背景として、農薬科学に関わる一般用語についてその和英対照と用語の解説を付した「農薬用語辞典」の初版が(社) 日本植物防疫協会から刊行されたのは昭和 49 年(1974)のことである。その 10 年後に再販され植物防疫に携わる関係者に利用されてきたが、1970 年代以降、優れた薬剤が次々に創製・上市される一方で、環境問題や農薬の安全性に対する社会的ニーズの高まりと農薬に関する科学・技術の進歩に伴う用語の多様化に対応するために、初版を全面的に改訂した「農薬科学用語辞典」が平成 6 年(1994)に出版された。この改訂辞典では、新たに農薬の安全性、バイオテクノロジー、法律・行政に関わる用語が追加され、広く植物防疫に関わる関係者の指針・資料としても大きな役割を果たしてきた。

しかし、その後 15 年を経て、近年の無登録農薬問題に端を発した農薬取締法の改正や、ポジティブリスト制度の導入など、農薬を巡る情勢もめまぐるしく変化し、これに対応して用語の見直しが必要となってきた。タイミング良く、本年 2 月にこれまでの農薬科学用語辞典を大幅に改訂した「農薬用語辞典」が(社) 日本植物防疫協会から上梓された。新「農薬用語辞典」では、精選した農薬に関する用語 865 種について各分野の専門家が分かりやすく解説するとともに、法律・行政、環境、毒性、分析等の関連分野にお

ける最新の情報が盛り込まれている。また本辞典では関連する用語を出来るだけまとめて解説するように工夫されており、前版に比べてより簡潔になっている。さらに付録として、農薬の形態分類・規格等、各種単位表、国内外の農薬関連機関・団体等のリスト(和・英名)が掲載されているほか、特に、近年ますます必要性を増している国際技術交流に合わせて、新版では和英、英和の索引が大幅に充実され(和英・英和とも 3000 語以上を収録)、一般の辞書で専門用語の検索にもどかしさを感じている研究者・技術者にはこれまで以上に使いやすい辞典となっている。一方、前版で導入されたバイオテクノロジー関係用語は他の専門書に委ねるとして省かれているが、本辞典の趣旨とバイオテクノロジー分野の発展がきわめて著しいことから妥当な判断と言えよう。ただ、付録にあった農薬登録関係の項まで割愛しなくとも良かったのではないかという気がする。

いずれにしても、英語論文に接する機会の多い本誌読者にとって、内容を一新した「農薬用語辞典」は、今回の改訂で論文作成などに、より有用性を増したと思われる。また本辞典が、消費者を含む農薬に関心を持つ関係者間のリスクコミュニケーションや、若い人への安全な食料の安定供給における農薬の役割に対する正しい認識教育にも役立つことを期待したい。

(東京農業大学 山口 勇)